

HP OpenView Performance Insight

Interface Discovery Datapipe ユーザーガイド

ソフトウェアバージョン : 2.1

Reporting and Network Solutions 7.0



2005 年 6 月

© Copyright 2004 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

ご注意

1. 本書に記載した内容は、予告なしに変更することがあります。
2. 当社は、本書に関して特定目的の市場性と適合性に対する保証を含む一切の保証をいたしかねます。
3. 当社は、本書の記載事項の誤り、またはマテリアルの提供、性能、使用により発生した直接損害、間接損害、特別損害、付随的損害または結果損害については責任を負いかねますのでご了承ください。
4. 本製品パッケージとして提供した本書、**CD-ROM**などの媒体は本製品用だけにお使いください。プログラムをコピーする場合はバックアップ用だけにしてください。プログラムをそのままの形で、あるいは変更を加えて第三者に販売することは固く禁じられています。

本書には著作権によって保護される内容が含まれています。本書の内容の一部または全部を著作者の許諾なしに複製、改変、および翻訳することは、著作権法下での許可事項を除き、禁止されています。

All rights are reserved.

Restricted Rights Legend.

Use, duplication or disclosure by the U.S. Government is subject to restrictions as set forth in subparagraph (c)(1)(ii) of the Rights in Technical Data and Computer Software clause in DFARS 252.227-7013.

Hewlett-Packard Company

United States of America

Rights for non-DOD U.S. Government Departments and Agencies are as set forth in FAR 52.227-19(c)(1,2).

Copyright Notices

© Copyright 2003-2004 Hewlett-Packard Development Company, L.P., all rights reserved.

Trademark Notices

OpenView は、Hewlett-Packard Company の米国の登録商標です。

Java™ は、米国 Sun Microsystems, Inc. の商標です。

Oracle® は、米国 Oracle Corporation, Redwood City, California の米国における登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

Windows® および Windows NT® は、米国 Microsoft Corporation の米国における登録商標です。

原典

本書は『*HP OpenView Performance Insight Interface Discovery Datapipe User Guide Software Version: 2.1 Reporting and Network Solutions 7.0*』 Manufacturing Part No. none (November 2004) を翻訳したものです。

サポート

次の HP OpenView の Web サイトを参照してください。

<http://openview.hp.com/> (英語)

<http://www.hp.com/jp/openview/> (日本語)

これらのサイトには、HP OpenView の提供する製品、サービス、サポートについてのお問い合わせ先や詳細が掲載されています。日本語サポートサイトを表示するには、上記英語版サイトから **[Support]** をクリックし、**[Software Support Online]** をクリックしてください。サポートサイトでは、次のことが可能です。

- 関心のあるドキュメントを検索する
- ソフトウェアパッチを探す
- サポートケースを登録 / トラッキングする
- サポート契約を管理する
- HP サポートの問い合わせ先を調べる
- 他のお客様とのディスカッションに参加する
- ソフトウェアトレーニングに登録する

目次

第 1 章	概要	7
	「ログの再インデックス」レポート.....	7
	バージョン履歴.....	8
	追加情報の入手先.....	9
第 2 章	データパイプのインストール	11
	円滑なインストールのためのガイドライン.....	11
	パッケージマネージャの実行.....	12
	パッケージの削除.....	13
第 3 章	パッケージの設定	15
	再インデックス化のサポートを有効にする.....	15
	インタフェース識別子の変更.....	16
	複数ポーラーの設定.....	17
第 4 章	ポーリンググループとポーリングポリシー	21
	ポーリンググループ.....	21
	ポーリングポリシー.....	22
索引	25

概要

Interface Discovery Datapipe は、SNMP の管理対象デバイス上のインタフェースを検出します。Interface Discovery Datapipe はインタフェースを検出するだけでなく、検出されたインタフェースの設定データも管理します。*ifIndex* の値が変更された場合にデータの継続性を確保するため、Interface Discovery Datapipe では以下のような代替の固定属性を使用することができます。

- *ifDescr*
- *ifName*
- *ifAlias*

次のレポートパックでは、Interface Discovery Datapipe によって管理されるデータを使用します。

- ATM Report Pack
- Cisco Ping Report Pack
- Frame Relay Report Pack
- Interface Reporting Report Pack
- MPLS VPN Report Pack
- NetFlow Interface Report Pack
- NetFlow Global View Report Pack

「ログの再インデックス」レポート

Interface Discovery Datapipe には、「ログの再インデックス」レポートが含まれています。このレポートは、パッケージをインストールすると OVPI アプリケーションサーバーに配布されます。ログの再インデックスには次の情報が含まれます。

- 各インタフェースの識別情報 (属性と値)
- レポートの日付と時刻
- 各インタフェースの MIB-2 *ifIndex* 値 ([現在のインデックス]列)
- 前のインデックス識別子 (存在する場合)

- 属性変更の数

以下に示すように、このレポートは既存のデバイスが再インデックス化されたり、新規デバイスが追加されたりした場合には必ず更新されます。

インタフェース検出データパイプ

ログの再インデックス



MIB2インタフェースインデックスレポートは、インタフェース再インデックスイベントのログを表示します。また、OVPIのインタフェース名の照合を監視するために使用できる情報も表示します。

供給されたインタフェースプロパティ

5月27日 (金) 18:19 - 5月27日 (金) 18:19

デバイス	インタフェース	イベント時刻	現在のインデックス	前のインデックス	変更数
hpcent.usa.hp.com	3	金 5 27 06:19 午後	3	No previous	1
hpcent.usa.hp.com	2	金 5 27 06:19 午後	2	No previous	1
hpcent.usa.hp.com	1	金 5 27 06:19 午後	1	No previous	1
hpcent3.usa.hp.com	1	金 5 27 06:19 午後	1	No previous	1
hpws1.usa.hp.com	1	金 5 27 06:19 午後	1	No previous	1
hpkssi.kobe.hp.com	2	金 5 27 06:19 午後	2	No previous	1
hpkssi.kobe.hp.com	1	金 5 27 06:19 午後	1	No previous	1
hpk Suj.kobe.hp.com	16777219	金 5 27 06:19 午後	16,777,219	No previous	1
hpk Suj.kobe.hp.com	1	金 5 27 06:19 午後	1	No previous	1
hpk sua.kobe.hp.com	4	金 5 27 06:19 午後	4	No previous	1
hpk sua.kobe.hp.com	3	金 5 27 06:19 午後	3	No previous	1
hpk sua.kobe.hp.com	2	金 5 27 06:19 午後	2	No previous	1
hpk sua.kobe.hp.com	1	金 5 27 06:19 午後	1	No previous	1
taso-kob.kobe.hp.com	1	金 5 27 06:19 午後	1	No previous	1
hpa spcal.kobe.hp.com	2	金 5 27 06:19 午後	2	No previous	1

バージョン履歴

次の表に、Interface Discover Datapipe に対して加えられた最近の拡張機能をまとめます。

バージョン	リリース日	機能 / 拡張機能
1.0	2003 年 1 月	Sybase のサポート
1.1	2003 年 5 月	マイナー修正
1.1	2003 年 10 月	変更なし

バージョン	リリース日	機能 / 拡張機能
2.0	2004 年 4 月	OVPI オブジェクトマネージャのサポート Oracle のサポート
2.0	2004 年 8 月	変更なし
2.1	2004 年 11 月	Juniper .dis ファイルの追加

追加情報の入手先

本マニュアルに関連するドキュメントには次のものがあります。

- 『*Interface Discovery Datapipe 2.1 ユーザーガイド*』
- 『*Interface Reporting ifEntry Datapipe ユーザーガイド*』
- 『*Interface Reporting Report Pack ユーザーガイド*』
- *RNS 7.0 のリリースノート (2004 年 11 月)*

主力製品である OVPI のマニュアルと、OVPI 上で動作するレポート機能についてのマニュアルは、次の Web サイトからダウンロードできます。

<http://openview.hp.com/> (英語)

[Support]>[製品マニュアル(英語)]を選択すると、「Product Manuals Search」ページ(英語)が表示されます。OVPI のマニュアルは [1. Product] で [Performance Insight] を選択すると表示されます。また、レポート機能、NNM SPI、および NNM 関連のマニュアルは、[Reporting and Network Solutions] を選択すると表示されます。

日本語のマニュアルは以下の URL から入手できます。

<http://www.jpn.hp.com/doc/manual/openview/index.html>

[Reporting and Network Solutions] の下の項目には、発行年月が示されています。ユーザーガイドが改訂されて新しいものが公開されると、ソフトウェアのバージョン番号が変わらない場合でも、発行年月が変わります。改訂したマニュアルは定期的に公開されるため、このサイトを見て更新されていないかを確認して、最新版でない可能性のある古い PDF を参照するのは避けてください。

データパイプのインストール

本章では、次の項目について説明します。

- 円滑なインストールのためのガイドライン
- パッケージマネージャの実行
- リモートポーター用の追加手順
- パッケージの削除

Interface Discovery Datapipe のバージョン 2.1 では **OVPI 5.0** が必要です。**Interface Discovery Datapipe** を使用するためのパッケージレベルの前提条件はありません。

円滑なインストールのためのガイドライン

RNS 7.0 CD には、NNM 用のコンポーネントと OVPI 用のコンポーネントが含まれています。OVPI 用のコンポーネントのインストールを選択した場合は、CD のインストールスクリプトによって CD からすべての OVPI パッケージが抽出され、お使いのシステムの **Packages** ディレクトリにコピーされます。抽出処理が終わると、インストールスクリプトは **Performance Insight** を起動し、パッケージマネージャインストールウィザードを起動します。

OVPI パッケージを CD からすでに抽出済みの場合は、すでにシステムにすべてコピーされているので、インストールを開始できます。**Performance Insight** を起動して、パッケージマネージャを開始し、画面の指示に従って **Interface Discovery Datapipe** をインストールしてください。パッケージマネージャを使用する前に、次のガイドラインを再確認してください。

以前のバージョンの削除

レポートパックにはアップグレードできるものもありますが、データパイプはアップグレードできません。**Interface Discovery Datapipe 2.1** 用のアップグレードパッケージはないため、古いバージョンを実行している場合は、最初にそれをアンインストールしてください。

古いバージョンをアンインストールすると、以下のような影響があります。

- **IR ifEntry Datapipe** は **Interface Discovery Datapipe** に依存しています。そのため、**Interface Discovery Datapipe** の古いバージョンを削除すると、パッケージマネージャは自動的に **IR ifEntry Datapipe** の古いバージョンを削除します。

- インタフェース設定データが失われます。ただし、失われたデータはすぐに再収集され、レポートに影響はありません。
- フラグが設定された収集をポーリングしていた場合 (フラグの設定されたインタフェースだけをポーリング)、バージョン 2.1 がインストールされた後で、ポーリングフラグを再準備する必要があります。
- ポーリンググループ情報が失われます。バージョン 2.1 がインストールされた後で、デバイスに適切なインタフェース識別子グループを再度割り当ててください。

分散システム

分散システムの場合、インストールはさらに複雑になります。ポーリングを実行するすべての OVPI サーバーにそれぞれ **Interface Discovery Datapipe** をインストールします。中央サーバーがポーリングを実行していない限り、中央サーバーに **Interface Discovery Datapipe** をインストールする必要はありません。

パッケージマネージャの実行

RNS CD を挿入し、OVPI ソリューションコンポーネントを抽出する指示手順に従います。Windows の場合、[メインメニュー] が自動的に開き、そこに指示手順が表示されます。UNIX の場合、**root** でログインし、CD が自動的にマウントされない場合は CD をマウントし、CD の最上位ディレクトリに移動して **./setup** コマンドを実行します。

OVPI パッケージが抽出され、システムにコピーされると、インストールスクリプトがパッケージマネージャを開始します。パッケージマネージャインストールウィザードが起動されていて現在実行中である場合は手順 4 から、そうでない場合は手順 1 から開始してください。

- 1 システムにログインします。UNIX システムの場合は **root** でログインします。
- 2 OVPI Timer を停止し、プロセスが終了するのを待ちます。

Windows NT: [設定] > [コントロールパネル] > [管理ツール] > [サービス] の順に選択します。

UNIX: **root** でログインし、次のいずれかを実行します。

HP-UX: **sh /sbin/ovpi_timer stop**

Sun: **sh /etc/init.d/ovpi_timer stop**

- 3 [管理コンソール] からパッケージマネージャを開始します。パッケージマネージャの [ようこそ] ウィンドウが開きます。
- 4 [次へ] をクリックします。[OVPI パッケージの場所] ウィンドウが開きます。
- 5 [インストール] をクリックします。デフォルトのインストール先ディレクトリを受け入れるか、必要に応じて別のディレクトリを指定します。
- 6 [次へ] をクリックします。[レポートの配布] ウィンドウが開きます。OVPI ユーザー名とパスワードを入力します。
- 7 [次へ] をクリックします。[パッケージの選択] ウィンドウが開きます。次のチェックボックスをクリックします。

IFEntry_Disc_Datapipe 2.1

- 8 [次へ]をクリックします。[タイプの検出]ウィンドウが開きます。タイプの検出を実行するにはデフォルトを受け入れます。

▶ **Interface Discovery Datapipe** には、ベンダー固有のタイプ検出ファイルが含まれています。これらのファイルは、適切な **index-by** グループをそれぞれのベンダーに属するデバイスに自動的に割り当てます。追加のデバイスタイプに代替インタフェース識別子を手動で割り当てる場合は、以下の手順に従います。

- [タイプの検出]オプションを無効にします。
- パッケージのインストール後、ポーリングポリシーの管理を使用してデバイスに適切な **index-by** グループを割り当てます。

- 9 [次へ]をクリックします。[概要]ウィンドウが開きます。
- 10 [インストール]をクリックします。[インストールの進捗状況]ウィンドウが開き、インストールが開始されます。インストールが完了すると、パッケージのインストール完了メッセージが表示されます。
- 11 [完了]をクリックします。
- 12 OVPI Timer を再起動します。

Windows NT: [設定]>[コントロールパネル]>[管理ツール]>[サービス]の順に選択します。

UNIX: root でログインし、次のいずれかを実行します。

HP-UX: **sh /sbin/ovpi_timer start**

Sun: **sh /etc/init.d/ovpi_timer start**

これで、Interface Discovery Datapipe がシステムにインストールされました。

パッケージの削除

Interface Discovery Datapipe をアンインストールするには、以下の手順に従います。

- 1 システムにログインします。UNIX システムの場合は **root** でログインします。
- 2 OVPI Timer を停止し、プロセスが終了するのを待ちます。
- 3 [管理コンソール]からパッケージマネージャを開始します。パッケージマネージャの[よろこそ]ウィンドウが開きます。
- 4 画面に表示されるパッケージの削除手順に従います。プロンプトが表示されたら、削除する **Interface Discovery Datapipe** を選択してください。アンインストールが完了すると、パッケージの削除完了メッセージが表示されます。
- 5 [完了]をクリックします。
- 6 OVPI Timer を再起動します。

パッケージの設定

この章では、以下の方法について説明します。

- 再インデックス化のサポートを有効にする
- インタフェース識別子の変更
- リモートポーラー用のポーリンググループおよびポーリングポリシーの設定

特定のデバイスに対するポーリングがすでに開始された後でそのデバイスのインタフェース識別子を変更した場合、変更後に収集されたデータは新しいインタフェース識別子を使用するため、変更前のデータと変更後のデータとは関連付けられません。このような事態を避けるには、データ収集が開始される前に、すべてのデバイスを目的の `index-by` グループに割り当ててください。

再インデックス化のサポートを有効にする

MIB-2 定義は `ifIndex` の固定値を保証するものではありません。インタフェースの追加または削除、ソフトウェアのアップグレード、またはシステムのリブートによっても、インタフェースの `ifIndex` 値が変わることがあります。このようなイベントが発生し、一意の固定識別子が使用されていない場合、再インデックス化が行われる前に収集されたデータはインタフェースに関連付けられません。

`Interface Discovery Datapipe` では以下の代替識別子を使用できます。

- `ifDescr` — `index-by-ifDescr` ポーリンググループでサポート
- `ifName` — `index-by-ifName` ポーリンググループでサポート
- `ifAlias` — `index-by-ifAlias` ポーリンググループでサポート

再インデックス化を有効にするには、デバイスで一意の、固定された代替識別子 (1 つだけの代替識別子) を選択します。`Interface Discovery Datapipe` には、特定のタイプのデバイスを自動的に代替インタフェース識別子に割り当てる、ベンダー固有のタイプ検出ファイルが含まれていることに留意してください。このため、選択処理の一部はすでに完了しています。`index-by-ifIndex` から他のグループにデバイスを移動している場合、識別子が更新され、`ifIndex` は新しい識別子に置き換えられます。

次の表に、デバイスタイプと事前に割り当てられた識別子を示します。

デバイスタイプ	OVPI タイプの検出によって割り当てられた識別子
Cisco Catalyst スイッチ	ifName
Cisco ルーター	ifDescr
HP ProCurve スイッチ (800T を除く)	ifName

Interface Discovery Datapipe は、ベンダー固有のタイプ検出ファイルを `DPIPE_HOME/scripts` ディレクトリにインストールします。index-by グループに割り当て済みのデバイスがすでにある場合、またはデバイスを手動で割り当てる場合は、以下の手順に従います。

- 1 タイプ検出を無効にします。
- 2 scripts ディレクトリから .dis ファイルを削除します。
- 3 デバイスを手動で割り当てます。

インタフェース識別子の変更

index-by-ifIndex グループはデフォルトのグループです。GENMIB2IF_Datapipe グループに属しており、index-by-ifAlias、index-by-ifDescr、または index-by-ifName には属さないすべてのデバイスが自動的にこのグループに含まれます。

インタフェース識別子の変更方法

インタフェース識別子を変更するには、以下の手順に従います。

- 1 各デバイスタイプごとに、インタフェース識別子を選択します。
- 2 そのタイプの各デバイスを適切な index-by グループに割り当てます。
 - a [管理コンソール] を起動します。
 - b [ポーリングポリシー] アイコンをクリックします。[ポーリングポリシーの管理] ウィンドウが開きます。
 - c [編集] > [ポーリンググループ] の順に選択します。
 - d 上のペインで [同じタイプのすべてのノード] を選択し、下のペインで必要な index-by グループを選択します。[編集] をクリックします。
 - e このグループに割り当てられるノードを左側のペインで選択し、[>>] をクリックして右のグループに移動します。完了したら [OK] をクリックします。
- 3 必要に応じて、その他のデバイスタイプおよび index-by グループについても上記の手順を繰り返します。
- 4 この手順はオプションです。タイプ検出によって配置されるポーリンググループとは別のポーリンググループにデバイスを割り当てた場合、DPIPE_HOME/scripts ディレクトリから次の Cisco または HP タイプ検出ファイルを削除してください。

- Cisco_device_by_ifName.dis
- Cisco_router_by_ifDescr.dis
- HP_ProCurve_by_ifName.dis

重複識別子のメッセージ

デバイスを `index-by` グループに割り当てると、識別子が一意でない場合は、識別子が重複していることを示す次のようなメッセージが **Trend** ログに挿入されます。

```
bcp_gateway, ,WARNING,1984,2076,0,"the object [testhost.test.hp.com_AT3/0] is duplicate for data table rv_ifentry_disc_ifname"
```

複数ポーラーの設定

複数のリモートポーラーで **Interface Discovery Datapipe** を使用している場合は、追加手順が必要です。標準のインストールでは、1つのリモートポーラーに対して4つのグループと8つのポーリングポリシーが設定されます。各リモートポーラーごとに独自のポーリンググループとポーリングポリシーが必要です。

データパイプパッケージには、2つのポーラー用のグループおよび収集ポリシーファイルが含まれています。1つのデータベースに対して3つ以上のポーラーを設定する必要がある場合には、グループファイルとポリシーの追加セットを生成する必要があります。

- 1 システムにログインします。UNIX の場合は、`root` でログインします。
- 2 **Interface Discovery Datapipe** パッケージのディレクトリに移動します。

UNIX:

```
$DPIPE_HOME/packages/IFEntry_Disc_Datapipe/IFEntry_Disc_Datapipe.ap
```

Windows:

```
%DPIPE_HOME%\packages\IFEntry_Disc_Datapipe\IFEntry_Disc_Datapipe.ap
```

- 3 次のコマンドを実行します。

```
trend_proc -f create_groups_multi_pollers.pro
```

- 4 次のコマンドを実行します。

```
collection_manager -import -file IFEntry_Disc_Collection_Policies_multi_pollers
```

- 5 ポーリングポリシーの管理を起動し、[編集]>[データパイプのインストール]の順に選択します。
- 6 [作成...]をクリックして、新しいポーラーを作成します。各ポーラーのホスト名とIPアドレス(任意)を追加し、[OK]をクリックします。
- 7 すべてのポーラーを追加したら、[閉じる]をクリックして終了します。
- 8 左のパネルの[すべて]をクリックしてすべてのポーリングポリシーを表示します。
- 9 元の **Flagged Discovery** ポリシー(名前の末尾に `_p1` または `_p2` がないもの)を削除します。

10 新しい **Flagged Discovery** ポリシー (名前の末尾に **_p1** または **_p2** が付くもの) をダブルクリックして変更します。

- a poller1 ポリシーの [**ポーリングの割り当て先**] 設定を手順 8 で設定した poller1 のホスト名に変更します。
- b poller2 ポリシーの [**ポーリングの割り当て先**] 設定を手順 8 で設定した poller2 のホスト名に変更します。

この時点で、15 分単位のポリシーは下表のポリシーのようになります。

ポーリングポリシー	収集されるデータのテーブルエイリアス名	収集元のグループ名	ポーリング元
Flagged_ifName_Disc_p1	x_IFEntry_Disc_ifName	discover-by-ifName-poller1	poller1 のホスト名
Flagged_ifAlias_Disc_p2	xV_IFEntry_Disc_ifAlias	discover-by-ifAlias-poller2	poller2 のホスト名
Flagged_ifDescr_Disc_p2	xV_IFEntry_Disc_ifDescr	discover-by-ifDescr-poller2	poller2 のホスト名
Flagged_ifIndex_Disc_p2	xV_IFEntry_Disc_ifIndex	discover-by-ifIndex-poller2	poller2 のホスト名
Flagged_ifName_Disc_p2	xV_IFEntry_Disc_ifName	discover-by-ifName-poller2	poller2 のホスト名
Flagged_ifDescr_Disc_p2	xV_IFEntry_Disc_ifDescr	discover-by-ifDescr-poller2	poller2 のホスト名
Flagged_ifIndex_Disc_p2	xV_IFEntry_Disc_ifIndex	discover-by-ifIndex-poller2	poller2 のホスト名
Flagged_ifName_Disc_p2	xV_IFEntry_Disc_ifName	discover-by-ifName-poller2	poller2 のホスト名

11 既存の **All Discovery** ポリシーをダブルクリックして変更します。

- a [**データの収集元**] オプションについては、[**タイプとビューとの組み合わせ**] を選択します。
- b [**ポーリングするグループの選択**] の [**作成 ...**] ボタンをクリックし、index-by Type グループと poller1 ビューグループの間に **AND** (かつ) を作成します。
- c [**ポーリングの割り当て先**] 設定を poller1 のホスト名に変更します。

12 [**ファイル**] > [**ポーリングポリシーの作成 ...**] の順に選択して新しい **All Discovery** ポリシーを追加します。

- a poller1 ポリシーと同様の 4 つの新しいポリシーを作成します。ただし、[**ポーリングするグループの選択**] は poller2 グループと等しくなるようにします。
- b [**データの収集元**] を [**タイプとビューとの組み合わせ**] に変更します。
- c [**ポーリングするグループの選択**] の [**作成 ...**] ボタンをクリックし、index-by Type グループと poller2 ビューグループの間に **AND** (かつ) を作成します。
- d [**ポーリングの割り当て先**] 設定を poller2 のホスト名に設定します。

この時点で、日単位のポリシーは下表のポリシーのようになります。

ポーリングポリシー	収集されるデータのテーブルエイリアス名	収集元のグループ名	ポーリング元
All_ifIndex_Discovery_p2	xV_IFEntry_Disc_ifIndex	index-by-ifIndex-poller2	poller2 のホスト名
All_ifName_Discovery_p2	xV_IFEntry_Disc_ifName	index-by-ifName-poller2	poller2 のホスト名
All_ifAlias_Discovery_p2	xV_IFEntry_Disc_ifAlias	index-by-ifAlias-poller2	poller2 のホスト名
All_ifDescr_Discovery_p2	xV_IFEntry_Disc_ifDescr	index-by-ifDescr-poller2	poller2 のホスト名
All_ifAlias_Discovery	xV_IFEntry_Disc_ifAlias	index-by-ifAlias-poller1	poller1 のホスト名
All_ifDescr_Discovery	xV_IFEntry_Disc_ifDescr	index-by-ifDescr-poller1	poller1 のホスト名
All_ifIndex_Discovery	xV_IFEntry_Disc_ifIndex	index-by-ifIndex-poller1	poller1 のホスト名
All_ifName_Discovery	xV_IFEntry_Disc_ifName	index-by-ifName-poller1	poller1 のホスト名

- 13 上のペインで [編集]>[ポーリンググループ ...]>[同じビュー内にあるすべてのノード] の順に選択し、次に下のペインで [poller1] を選択します。poller1 によって収集されるノードを [poller1] ビューに割り当てます。
- 14 上のペインで [編集]>[ポーリンググループ ...]>[同じビュー内にあるすべてのノード] の順に選択し、次に下のペインで [poller2] を選択します。poller2 によって収集されるノードを [poller2] ビューに割り当てます。

ポーリンググループとポーリングポリシー

Interface Discovery Datapipe の標準インストールでは、5つのポーリンググループと日単位および15分単位のポーリングポリシーの組み合わせが1つ有効になります。複数ポーラーのサポートを有効にする必要がない限り、デフォルトのポーリングポリシーを変更する必要はありません。

ポーリンググループ

Interface Discovery Datapipe のインストールによって有効になったポーリンググループを次の表に示します。

名前	説明
GENMIB2IF_Datapipe	MIB-2 をサポートするすべてのノードの最上位レベルのグループです。
index-by-ifAlias	GENMIB2IF_Datapipe グループのサブセット。識別子として ifAlias を使用するすべてのノードを含みます。
index-by-ifDescr	GENMIB2IF_Datapipe グループのサブセット。識別子として ifDescr を使用するすべてのノードを含みます。
index-by-ifIndex	GENMIB2IF_Datapipe グループのサブセット。index-by-ifAlias、index-by-ifDescr、または index-by-ifName グループに属さないすべてのデバイスがこのグループに含まれます。デバイスが別のグループに割り当てられない限り、デバイスのインタフェース識別子のデフォルト値は ifIndex です。このグループの編集は必要ありません。
index-by-ifName	GENMIB2IF_Datapipe グループのサブセット。識別子として ifName を使用するすべてのノードを含みます。

4つのグループはすべて GENMIB2IF_Datapipe に基づいています。index-by-ifIndex グループは、1時間に1回自動的に生成されます。このグループは、デバイスが新しいグループに再度割り当てられても、index-by-ifIndex からただちに消滅することはありません。ただし、その後、デバイスは新しい index-by グループからポーリングされます。

上記の表の 5 つのポーリンググループは、どれもポーリングポリシーマネージャを使用して参照および変更することができます。ポーリンググループを参照または変更するには、[ポーリングポリシーの管理]を開き、[編集]>[ポーリンググループ]>[同じタイプのすべてのノード]の順に選択します。

ポーリングポリシー

Interface Discovery Datapipe の標準のインストールでは、以下のポーリングポリシーが有効になります。

- 4 つの日単位のポリシー、各 index-by グループに 1 つずつ
- 4 つの 15 分単位のポリシー、各 index-by グループに 1 つずつ

日単位のポリシー

日単位のポリシーは、MIB-2 をサポートするすべてのデバイスのすべてのインタフェースを検出(その後、再検出)します。日単位のポリシーを以下の表に示します。

ポリシー名	収集されるデータのテーブルエイリアス名	収集元のグループ名
All_ifAlias_Discovery	xV_IFEntry_Disc_ifAlias	index-by-ifAlias
All_ifDescr_Discovery	xV_IFEntry_Disc_ifDescr	index-by-ifDescr
All_ifIndex_Discovery	xV_IFEntry_Disc_ifIndex	index-by-ifIndex
All_ifName_Discovery	xV_IFEntry_Disc_ifName	index-by-ifName

15 分単位のポリシー

15 分単位のポリシーは、フラグの設定されたデバイスについてのみすべてのインタフェースを検出します。15 分単位のポリシーを以下の表に示します。

ポリシー名	収集されるデータのテーブルエイリアス名	収集元のグループ名
Flagged_ifAlias_Discovery	xV_IFEntry_Disc_ifAlias	discover-by-ifAlias
Flagged_ifDescr_Discovery	xV_IFEntry_Disc_ifDescr	discover-by-ifDescr
Flagged_ifIndex_Discovery	xV_IFEntry_Disc_ifIndex	discover-by-ifIndex
Flagged_ifName_Discovery	xV_IFEntry_Disc_ifName	discover-by-ifName

Interface Discovery Datapipe は、コア管理対象ノードテーブル `ksi_managed_node` に `ifEntry_discover_flag` という名前のフラグ列を追加します。特定のノードに対する再インデックス化イベントが検出された場合、またはシステムに新しいノードが追加された場合は、検出フラグが設定され、次のポーリング周期中にそのノードのインタフェースが再検出されます。

C

Cisco Catalyst スイッチ , 16
Cisco ルーター , 16
collection_manager コマンド , 17

H

HP ProCurve スイッチ , 16

I

Interface Discovery Datapipe 1.1, 11

P

Product manuals search (Web ページ), 9

T

trend_proc コマンド , 17

あ

インタフェース識別子 , 16
インタフェース識別子の変更 , 16

さ

再インデックス化のサポートを有効にする , 15

た

タイプ検出ファイル , 13, 15

は

複数ポーラーの設定 , 17
フラグが設定されたポリシー , 17

ポーリンググループ

GENMIB2IF_Datapipe, 21
index-by-ifAlias, 21
index-by-ifDescr, 21
index-by-ifIndex, 21
index-by-ifName, 21

ポーリングフラグの再準備 , 12

ポーリングポリシー

15分単位のポリシー , 22
日単位のポリシー , 22

ポーリングポリシーマネージャ , 17

ら

「ログの再インデックス」レポート , 7

